



厳美地域の伝統

小正月行事を開催しました



1月11日(土)に、毎年恒例の小正月行事を開催しました。
今年も、厳美スポ少さん、2区サロンさん、滝ノ上サロンさん、地域の皆さん、一関市民センター「清庵学び塾」さんにご参加いただき、厳美地域の伝統である小正月行事を体験していただきました。
参加していただいた皆さんには、人生大学「文化伝承教室」さんや正月かざり伝承会さん、ひこばえの会さんにご指導をいただきながら、干本杵や一本杵での「餅つき」、つきたての餅をミズキにならす「繭玉ならし」、ヌルデの皮を小刀で削る「きんこ作り」、栗の木に“きんこ”や“削り花”をならす「きんこならし」、稲わらや豆殻を植えて豊作を祈願する「おさくだて」を体験していただきました。
2区サロン、滝ノ上サロンの皆さんには、子どもたちに楽しんでもらいたいと、繭玉用の餅切りの他、後片付け等のお手伝いもしていただき、世代を超えた笑顔あふれる小正月行事となりました。
小正月行事終了後は、ひこばえの会さんが丹精込めて作った、あんこ餅、きな粉餅、納豆餅が入ったお餅のお弁当を持ち帰っていただきました。
小正月行事開催に向け数日前から準備をしていただいた地域の皆様、ご参加いただいた皆様、大変ありがとうございました。



力を合わせてぺったんぺったん



搗いた餅をミズキにならして



心強い助っ人の皆さん



小刀でせっせときんこづくり



みんなでワイワイきんこならし



豊作を願っておさくだて

山谷分館を震災学習拠点へ

～活動報告 その2～

岩手・宮城内陸地震の震災伝承活動は、昨年6月15日に開催した震災資料展示室地域住民お披露目会以降も、有志の皆さんと力を合わせ、避難所だった際に浴室として使われていた部屋の修繕、山谷分館を拠点に、震災遺構 旧祭時大橋や市野々原などの被災地を巡るツアーガイドの検討、山谷地域の皆さんへの説明などの活動を続けてきました。

また、山谷分館を擁する山谷地域振興協議会さんには、「一関じもっと基金（共感寄付金）」へのエントリーの結果、厳美地域内外の皆様から多くの賛同をいただくことができました。皆様からいただいた寄付金は、震災資料展示室と震災伝承活動を更に充実していきたいという思いから、動画放映のための機材やツアーガイドの際の拡声器の購入、パンフレットの作成などに使用させていただく予定です。

皆様への感謝の気持ちと共に、『賛同をいただく＝期待されている』ことを胸に刻みながら、活動を続けていきたいと思いますので、今後も皆様のご理解、ご協力の程よろしくお願いたします。

震災資料展示室は見学可能となっています。見学を希望される方は、厳し美しの里協議会のHPをご覧ください。また、厳美市民センター（29-2205）へお問い合わせください。

～岩手・宮城内陸地震 震災伝承活動の様子～



浴室修繕作業の様子



見違えるほどキレイに



じもっと基金贈呈式



ツアーガイドの内容を検討



実際に被災地を巡り、検証



設置されている看板も貴重な資料



昨年の12月19日から、旧鈴木家前庭に鳥居型門松が設置されています。正月かざり伝承会の皆さんが、厳美地域に伝わる伝統の門松を後世に伝えたいと、毎年設置してくださっています。

厳美の冬の風物詩、旧鈴木家の門松は小正月行事のきんこやおさくだと共に、2月中旬まで設置する予定ですので、この機会にぜひご覧ください。